

平成24年6月1日

聴取結果書

東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証委員会事務局

局員 仁保智紀

平成24年2月15日、東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証のため、関係者から聴取した結果は、下記のとおりである。

記

第1 被聴取者、聴取日時、聴取場所、聴取者等

1 被聴取者

民主党参議院議員 福山 哲郎（事故当時は内閣官房副長官）

2 聴取日時

平成24年2月15日午後1時30分から同日午後5時30分まで

3 聴取場所

事故調事務局927会議室

4 聴取者

柳田委員、高嶋参事官、飯崎参事官補佐、神藤主査、仁保主査

5 ICレコーダーによる録音の有無等

あり

なし

第2 聴取内容

事故対応全般について

第3 特記事項

- 下線部については、先方より強い非開示の要望があった。
- 本文において(1)～(6)として言及される避難指示は以下のとおり。
 - (1) 1Fから半径3km圏内の避難指示(3/11 21:23)
 - (2) 1Fから半径10km圏内の避難の指示(3/12 5:44)
 - (3) 2Fから半径3km圏内の避難の指示(3/12 7:45)
 - (4) 2Fから半径10km圏内の避難の指示(3/12 17:39)
 - (5) 1Fから半径20km圏内の避難の指示(3/12 18:25)
 - (6) 1Fから半径20～30km圏内の屋内退避の指示(3/15 11:00)

以上

○質問者 それでは、ヒアリングの方をよろしくお願いたします。

事前に質問事項ということでお渡ししていたのですけれども、この中で特に最初に避難の関係、特に福山先生は避難の関係で携わられていたと今までお聞きしておりますので、避難の関係について中心にお聞きしたいと思うのですが、まず最初に、3月11日の震災後から最初の3kmの避難指示が出た辺りまでの福山副長官の当時の時系列的な動きについて、これは1.の(1)の緊急事態宣言の発出等に関わってはくるのですけれども、最初の状況について教えていただきたいと思ひます。

○福山前副長官 これはどのぐらい答えればいいのでしょうか。ものによりますよね。最初に、済みませんがお話をさせていただきます。

2時46分に震災がありました。もうあちこちで報道されていますが、私は副長官の執務室におりました。揺れ出したときに、御案内のように決算委員会で、総理始め官房長官全員、国会の委員会室にいて、私は副長官室のテレビのモニターで揺れを見て、これはまずいと思ひまして、すぐ隣の副長官の秘書官室に飛び込みました。隣なので、おいおい、大丈夫かという話をして、テレビをとにかく注意してくれと。その後、総理と官房長官は国会がとにかく休憩になるかどうかというのは委員長の判断なのでわかりませんので、私は自分の秘書官に、危機管理監を始め緊急参集チームを下に集めてくれと、その指示を出してくれという指示を出しました。

その後も「僕は下に降りるぞ」と言って秘書官数名を連れて危機管理センターに向かいました。

結果として2時56分か58分の間ぐらいたと思ひますが、危機管理センターに飛び込みました。同時に枝野官房長官も国会から飛び込んでおられて、ほぼ私と官房長官は同時でした。

当時、もう参集チームは集まっておりまして、本当に大変ごった返している状況で、きちっとした会議をしているという状況ではありませんでした。伊藤危機管理監も当時はもう席に着いておられて、私と官房長官が着いた恐らく4～5分後だったと思ひますが、菅総理が入って来られました。当然、松本防災大臣も我々の正面方に座って

座りながらそれぞれの判断をしたというのがスタートです。

現実の問題として、大臣がみんなこちらに寄ってくるという話を枝野官房長官と相談して、情報が全くない中で大臣に来てもらっても余り意味がないというので、一度各省庁に戻っていただきました。各省庁に戻っていただいて、できる限りの省庁の集めた情報を持って危機管理センターに集まってくるという指示を出して、結果としてもう皆さん御案内の

ように、災害対策本部が設置されたのが15時14分、そして災害対策本部、各閣僚が来たのが15時37分です。これは1回、各省庁に入ってもらったのでこの時間になりました。結果として申し上げますと、もう皆さん御案内のとおりですが、その場では電話が鳴り響いていまして、各省庁がそれぞれ例えば国交省ですと道路の陥没状況、道路の通行止めの状況等のどんどん緊急電話が入ってきます。鉄道の止まっている状況、脱線状況等について入ってきます。消防庁からは救急車、更には消防車の手配が何々地域119番何件、110番何件という形でどんどん警察からも入ってきます。

しかしながら、御案内のように、8県500kmにわたる被災ですので、どんどん入ってきてその火災の状況はどんな状況なんだ、その119番はどの程度の広がりなんだと言っても、全くその時点ではわかりません。

一方で、厚生労働省は例のGMATだったか、医療班の手配等をしています。一方で、御案内のように、保安院並びに資源エネ庁のところからは、福島第一原発については緊急停止をしたというのがすぐ緊急電話で入って、そこについては一旦我々は実は頭から消えました。緊急停止だと、そこでほっとしたという状況で、あとはそのプロセスの中で何を一番最初に指示するかというのはその場その場の判断で、いわゆる伊藤危機管理監と、原田統括官と一緒に、総理、官房長官とずっと座りながら現実の判断をしていたというのが実態でございます。

その中で御案内のように、3時40分ぐらいに福島第一原発全電源喪失、冷却機能停止というのが保安院のマイクを通じて流れてきました。それは多分15時40分よりちょっと後だと思えますが、流れてきたときに、済みません、私は正直にカミングアウトすると、原子力は当時は全く素人ですので、えっと思ったのですが、それが一体次に何を■するのかについては、ダイレクトには正直申し上げてイメージができませんでした。

しかしながら、そのときの喧噪の最中の危機管理センターがちょっと雰囲気が変わったのだけは覚えています。これはひょっとしたら大変なことが起こるのではないかなと思いつつながら実はオペレーションを続けていたというのが実態のところでは。

結果として言うと、御案内のように1回目の災害対策本部が終わって、その後、一度執務室に入ります。これは基本的には総理の記者会見の準備をしようということで執務室に入りました。そして、そのときには岡田幹事長や当時の仙谷代表代行が来られて、どういうメッセージを出すか。このときは野党に対する呼びかけ等も重要でしたので、そういったことの打ち合わせをしました。

その後ですが、御案内のように海江田大臣が入ってきて、例の4時45分からの15条事象についての報告が執務室であります。これは私は同席をしています。このときにいろんな報告を受けたのですが、受けている最中に御案内のように党首会談が入ったので、総理は抜けます。総理は抜けられたのですが、私の記憶で言うとこのときには先送りをしたということではなくて、現実の問題としての詳細が今一つ把握できないので、とにかく党首会談を終らせてすぐ戻ってくるからと言って総理は行って戻ってこられたというのが私な

りの記憶です。

その後、6時過ぎから中野寛成国家委員長とか伊藤危機管理監が入って、原子力災害対策本部が始まる前にもう一度海江田大臣と打ち合わせをします。そのときに例の上申書の話がその前も含めて出てきます。

御案内のように、原子力災害対策本部と緊急災害対策本部が一遍に二階建てで行われるのは6時9分ぐらいだったのですけれども、このときに実は総理はこういうことを発言しています。福島1号、2号、3号、本来なら炉を止めて冷却用の緊急用ディーゼル発電機を回すのだけれども、系統が津波で動かないと。今は電池で動く冷却系で今は冷やしている。8時間を超えて炉心の温度が上がると10時間でメルトダウンを起こすという極めて心配な状況ということを原子力災害対策本部で総理が発言されています。私はこれをメモしているのですが、これはいわゆる海江田さんとかが15条通報で入ってきたときの説明を総理なりに自分なりに咀嚼したことをこの場で言ったと思っています。その咀嚼の時間が総理はそれなりに必要だという判断の中で、実は党首会談のときには一度中断をしたというのが私なりの記憶です。

そのときに総理はもう一個言っているのは、陸路、空路で電源車を送っていると。避難を行う必要があるかもしれない。経産大臣から総理に上申を受けたみたいなのを言われています。これが表になっていない原子力災害対策本部での総理の御発言です。ですから、実はこの時点で一定の危機的な状況については総理も我々も判断をしておりました。ただ、この最悪の事態はどの程度の蓋然性でなるのかとか、本当にこれが起こり得るのかということについては実は わかっていません。そういうことが起こるかもしれないという説明はあったので原子力災害対策本部をやるわけですけれども、結果としてはそういう話になります。

その後、実は緊急災害対策本部を終えてからもう一度執務室に戻ります。このときに、いわゆる東電からの武黒さんや保安院の寺坂院長等が来ていて状況について説明することと、何とか電源車を手配という話があります。このときには当時副長官でいらっしゃいました藤井副長官がいらっしゃったのを私は非常によく覚えていて、なぜならば武黒さんというのは政治的な渉外をやっていた担当なので、藤井先生とは面識があったのです。「よっ」とか言って藤井先生が言われているのを私は見えて、私は全く面識がなかったので、なるほどそうなのかと思って武黒さんの話を聞いて、実は電源車の話を聞きました。

電源車の話を基本的に聞いたというか、何がどのぐらい必要なのかというのを結果として私が引き取りますと言って、私が総理の秘書官とこの電源車の手配を具体的に始めたのがこの夕方以降です。当時の東電からのメッセージは、とにかく電源車をくださいというメッセージでした。なぜ電源車かといえば、もう諸先輩方おわかりのとおりで、とにかく冷却機能を復活させるのは電源が必要だから電源車をくれというのが東電の唯一のメッセージです。

一方で、阪神・淡路大震災の学習を経て、実は我々は例の緊急車両以外は通行止めにし

ておりました。つまり、東電から電源車を送るにしても、警察の誘導が必要だという判断の中で実は官邸が関与したというのが実態のところでは。実際、執務室では電源車の手配をやっている最中に、我々のところでは気仙沼がもう火事で火の手が上がっているとか、地域が孤立しているとか、消防が動かないとか、海が燃えているとか、市内で火災が発生しているというのは並行してどんどん情報が上がってくるような状況でした。これが大体8時過ぎぐらいです。その8時過ぎぐらいのときに、実は24時間後に放射能漏れと、1時間前には半径1～2kmに対しては避難をさせなければいけないのではないかという問題提起が保安院からありました。これは私のノートですけれども、明確にそれが書いてあります。

そのときにメモがしてあるので、どのぐらいの人数避難させるんだと聞いたと思います。3kmが5,870人、1967世帯。大体そこからPM3時半とここに書いたのですけれども、
8時間後で11時半ぐらいに大体状況によって危なくなるかもしれないというようなことが書かれていて、避難をさせなければいけないかもしれないというのが8時26分の段階です。その後、8時半に総理は危機管理センターに飛び込みます。ここで総理は原発ではなくて全体の被災状況、津波・地震等のオペレーションをしている危機管理センターの要の
スタッフを前に、とにかく連絡を密に確実にしながらやってくれと、コミュニケーションしてくださいと、頑張ってくださいと、この3つだけ総理は言って、実は問題になっています危機管理センターの中2階の小部屋に飛び込みます。

これは批判ではなくて申し上げると、5階の執務室と危機管理センターしか中間報告は登場しないのですが、実は非常に重要な要素になっているのは中2階の小部屋です。ここから先、ベントの意思決定をする1時半まではほぼ中2階が舞台になります。それはなぜならば、原子力発電所という特殊な事故の中で、地震や津波と一緒に、先ほど申し上げた
電話が鳴り響いている大きい危機管理センターでは全くシビアな意思決定をするような場ではないので、中2階の小部屋に行きました。

そこに総理、経産大臣、班目委員長、東電の武黒さん、武黒さんを補佐する人、寺坂院長、官房長官、私がほぼ座って、そこに当時補佐官であった細野大臣と寺田補佐官が連絡で入れ代わり立ち代わり入ったというのが実態です。

なおかつ連絡要員が要るということで、寺田補佐官と細野大臣はほとんど入ったり出たりというような状況でした。

私は実は電源車の手配を必死にやるとともにもう一個オペレーションがあつて、それは首都圏の帰宅困難者に対する避難場所の確保というのが私のもう一個のオペレーションでした。これは御案内のように東京も全部の電車が止まっていたので、首都圏の勤務者、学生が帰れないという状況で、全省庁と経済界に避難をする場所を確保してくれとお願いして、そのリストを上げてもらうために私は会見をして、それをテレビのニュースのテロッ

プで流してもらおうというオペレーションをしておりました。ですから、私の夕方以降の2つの大きな仕事は、電源車の手配と帰宅困難者です。

なぜ私がこれをコミットしたかという、枝野大臣は全体の被災地状況を把握していただいて、官房長官としての会見をしていただかなければいけないので個別の案件は私が抱えますと言ってこの2つを私が引き受けました。寺田補佐官は基本的には総理の身の回りの世話が必要なので、寺田さんは総理の部屋に行っています。身の回りの世話をさせていただきました。総理は基本的には中2階で原発対応にコミットしていただきました。

先ほど申し上げた8時半の総理の危機管理センターでの激励は、基本的にはそういう役割分担をする中での意思決定だと思っただけだと思います。実は9時1分には銀座線が復旧するとか私のノートに同時に書いてありまして、なおかつ JICA、六本木何とかセンター、防衛省の市ヶ谷の研究所、これは避難者を受けている名前が挙がってくるとどんどんメモしていたというのが実態です。

○質問者 ちょっと済みません。8時半の総理の3拍子ですけれども、もう一度確認させていただきますか。

○福山前副長官 連絡を確実にしてくれと、コミュニケーションしてくださいと、頑張ってくださいでした。

○質問者 この連絡というのは原発に限ってですか。

○福山前副長官 いいえ、全体です。これはもう危機管理センターで言われましたので、ここはすべての震災対応をしている[]の前でやられたので、原発だけにこだわりません。

○質問者 現場に[]もういたのですね。

○福山前副長官 はい。

○質問者 どうも。

○福山前副長官 それで問題のベント、それ以外の話になりますが、実態として言うと、私は日が変わる直前まで電源車の手配をしていました。結果として電源車は恐らく30台以上現場に向かっていると思いますが、その理由は道路がどこで寸断されているかわからないのと、現実に電源車は何時にたどり着くかわからないのと、1台でも多く電源車が行った方が電源が後々長く持つのではないかという思いの中で、いろんなところから電源車の手配をしました。そのメモも残っているのですけれども、東京から20台とか、那須塩原から3時間で3台行くとか、国立府中から5台とか、茨城、水戸、大宮から防衛省から飛ばすんだとか、そんなことをずっとやっていました。

ただし、空路の方が早いかもしれないということで、同時に防衛省にヘリで運べないかということの依頼をしたら、残念ながら日本の防衛省、自衛隊には電源車の重さを運べるヘリがなかったので、私は夜中は日が明ける直前は、駐留米軍に協力依頼をしてヘリを手配できないかということを経理の秘書官を通じてお願いしていました。ですから、実は若干話しておりますけれども、次の日の明け方の7時ぐらいのニュースで米軍の協力の要請

を断って冷却材を断ったという報道が流れました。あれについては私は信じられない思いで、もう私はその前の日が変わる前から駐留米軍に協力を要請していて、駐留米軍は非常に献身的にやっていただきました。ですから、全くもって日本が協力要請を断ったみたいなことはないのになぜこんな報道が流れるのだろうかというのが私の率直な実は明け方の思いでした。

現実問題でそのオペレーションをしている最中に、残念なことに■時半に初めて死者の88人という報告が上がってきました。実は日が暮れてから現地は通信と電気が途絶えていますから真っ暗なのです。先ほど申し上げた自衛隊のヘリからの映像も真っ暗です。津波の状況も全くわかりません。そんな中で88人の死者というのが22時30分に入ってきて、悲痛な空気が全体としては流れました。しかし、結果として1万5,000人ですから、まだこれはほんの最初のスタートラインだったというのが実態です。

○質問者 ちょっと済みません。電源車は30も集めるといのは、事前に電源車を持っているところのリストというのはいったいどうですか。

○福山前副長官 これは東電がそれぞれの自分のプラントに電源車が何台かあったのと、それぞれの防衛省に電源車があって、全部リストがあったというか、東電は持っていたと思いますが、とにかくあるところに関わり合わせて行かせたというのが実態です。

○質問者 東電と防衛省。

○福山前副長官 はい。当然そこに警察なり防衛省なりが先導で付きました。とにかく急いで行くようにということで、緊急車両として対応するようにということでやりました。

結果として、12時でございますが、総理が下の中2階の小部屋から執務室に戻られました。執務室に戻って何をやったかという、0時15分から初めてのオバマ・菅会談があります。そこではオバマ大統領から非常に真摯な言葉があって、私の記憶では総理は心にしみるみたいなことを言われて、オバマ大統領は本当に厳しい恐ろしい大変な時間を過ごしていると思いますという言葉がありました。そのときにもう実は電源車の手配をお願いしていたのでいろんな協力をお願いしているよと言ったら、オバマ大統領も聞いているというようなことのやりとりがあったので、もう当時のアメリカは現状を把握していましたし、特にミリミリの中では、防衛省、国防省の間では連絡を取り合っているというのはオバマ大統領もわかっていたという状況です。菅さんから輸送能力で実際お願いしているというお礼を言われています。

この12時15分からオバマ大統領の首脳会談が終わった後、0時57分ですが、総理は危機管理センターの小部屋にもう一度飛び込みます。ここでいわゆるベントの議論になります。あえて先ほど飛ばしたのですが、中2階にいた8～11時ぐらいまでの間に、ずっと実は今後の想定等について、保安院とか班目委員長とかからヒアリングをしています。最悪の状況はどうなるのか、避難はどうすればいいのか、チェルノブイリのときにはどうなるのか、爆発は起こるのか、起こらないのか、こんなことを散々特に総理は理系だったものなので、かなり炉のこととかも含めて問い詰めた中で、済みません、余り明瞭な答えが

返ってこなくて相当我々はいらつきました。

その状況を踏まえて0時57分に危機管理センターに入って、それが私のこのメモですが、1時半のベントの意思決定のところですけども、いわゆる放射能プラスヨウ素が出る。3号機は水位が高めに維持と書いてあります。バックアップとちゃんと書いてあります。1号機はベントに入ると。炉心は溶けてないと書いてあります。外に出ないと。水位がプラス1mと書いてあります。ここで実は東電側から武黒さんから2時間ぐらいをめでベントができるという報告があって、我々はベントというのは世界で例があるのかというのを聞いたら、まだありませんというようなことを寺坂さんが、このときは寺坂さんはいなくなっていたかな。だれでしたか、次長。

○質問者 平岡次長。

○福山前副長官 平岡さんになっていたかもしれませんが。寺坂さんは要は10時ぐらいの間のやりとりの中で消えたかもしれませんが、平岡さん辺りや班目さんからはベントというのは国際的には例がないという話を聞きました。しかしながら、済みません、政治家の我々から言うと、まず第一に爆発のリスクはないのかということを知りました、チェルノブイリ型の爆発はないのかと、スリーマイルとはどう違うんだみたいなことをよく聞いていましたので、そのことばかり言っていました。

話が前後して恐縮なのですが、その前に3km圏の避難の指示を出します。それは先ほど申し上げた10時ぐらいのやりとりのときに、その避難の状況の意思決定をするのですが、そのときにはもう簡単に申し上げると、先ほど私がノートに書いてあった何千人という数値が前提にあります。大きくしないでいいのかどうかという議論はしたのですが、そのときに気づいたのは、3kmから先にしないと先に広めのところから逃げ出すと渋滞になって危ないと。とにかく炉の近くを逃がそうという判断をしました。一遍に大きくした状況の中では、遠い人たちが逃げるとそこで渋滞すると。だから、本当に距離の近い人たちが渋滞で遅れる可能性があるということで3kmということを決めました。

しかし、一方で、彼らは3kmぐらいしかマニュアルがないみたいなことも寺坂さんはそのときには言っていました。準備はしていませんみたいな。もう一個は、班目さんからはそんな大きくやる必要はありませんみたいなことが何度も正直言ってありました。その中でとにかく3kmだと。当時、皆さんはもうおわかりのように、福島県が先んじて2kmを出しているはずで。そのことについては我々は全く知りません。

オフサイトセンターがどういう状況になっているか全くわかりません。ただ、明確なのは、停電だと、機能はなかなかしていないということだけはわかっていますが、オフサイトセンターにどういう機能でどういう役割を果たすのかについても余り明確な説明は寺坂さんからはありませんでした。そうすると、我々から見れば、当然東北は全部緊急電話しがつながらないし、停電している、通信途絶えているのは嫌って言うほどわかっていますから、どこかの意思決定はここでしなければいけないという空気がその中2階では流れていたというのが実態のところでは。

結果として、それが日が明ける前ですが、1時半の先ほど言ったベントの意思決定のときには、当然しょうがないねという話になりました。そのときにはもう3kmは避難が出ているのだよねという確認をして2時間めどでベントができますという話になっているので、我々としては実はこれでベントの意思決定をしたから放射性物質が出てきてしょうがないなと言って総理は執務室に戻られました。私はそのまま危機管理センターに残りました。2時間ぐらいがめどだからということだったので、3時ぐらいに会見をしようということをして海江田大臣と枝野官房長官と話をし打ち合わせをしていたというのが実態のそれ以降です。

現実問題として、そのころ私は知らないのですが、総理は視察の準備を上で指示をされます。ですから、ちょうどベントの意思決定をした後かその前後から総理は5階の執務室で視察の準備をされます。私のノートに書いてあるのですが、2時20分、総理訪福島決定と書いてあります。ですから、大体この手前に総理の秘書官室の方でその話をしていたということが私なりに推測をします。

現実に官房長官のベントのとき、経産大臣のベントのときには3時になったのでやろうと言ったときに、明確に私は官房長官と話し合いをしたことを覚えています。経産大臣と東電が経産省で会見するよと、それで終わりにしようかと言っていたのですが、官房長官にベントという初めてやること、放射性物質を外へ出すのに、日は明けているのですけれども、朝になってから官房長官が会見をしたらそれは隠蔽したと言われると。だから、とにかく海江田大臣の会見が始まった後を受けて官房長官がやはり会見してくださいという話をして、枝野さんもそうだねと、それはやろうと言っていたので、はっきり覚えているのですが、経産大臣の秘書官と官房長官の秘書官が電話でやりとりをして、経産大臣の会見が始まったということを確認して官房長官は会見室に伺われました。会見を3時12分から始められました。

このときに明確に私たちの中では3時過ぎにベントが始まると思っています。当然、経産省での会見でも、東電側が記者からの質問にもうすぐ準備ができて始まると思いますと答えています。ですから、政治の我々としてはもうベントは行われて、ある種のここで一旦危機が回避できるのではないかという空気にはなりました。当然、そのときに検証委員会の報告を見てたまげたのですが、ICの議論みたいな話は私たちのところにはあまり入ってきていません。ましてやそんな細かい技術的な話があつた寺坂さんと武黒さんから出てくるとは思えないので、実態としてはそういう状況でした。

官房長官の会見には私は最初の1週間ぐらいは全部同席をしていますので、3時12分から官房長官の会見に同席をした後、官房長官にはお休みくださいと言って一旦執務室に戻っていただきました。私は危機管理センターに残っていたのですが、ぞっとしたのは、御案内のように3時49分、長野県で6強の地震がもう一度起こりました。連続してまた2回長野と新潟で大きいのが3時49分と4時何分かにあるのですが、私は2時46分の危機管理センターに飛び込んだ状況と同じ状況がもう一度危機管理センターの中で始まりま

した。

これはすごく情緒的なので余り報告書にはそぐわないのですけれども、私はそのとき初めてとなりました。気象庁の担当者に向かって、この新潟の大地震は、当時は東日本大震災などという名前は付いていませんから、東北の地震の余震なのか、関係する地震なのか、誘発地震なのか、全く関係ない別個なのか、どちらなんだと気象庁に初めてとなりました。気象庁からの答えはわかりませんという答えでした。

本当にこれは情緒的なので余り意味はないのですけれども、当時は福島原発がベントするかしないかの最中で電源が切れていると。東北地方はみんなで津波でやられてその被災状況もわからなくて通信が途絶えて停電している。今、一生懸命次の日の明朝に自衛隊が出動できる体制を整えている中で、新潟とか長野とか、ひょっとして東海とかこのレベルの大きな地震が起こったら、完全に政府の対応能力は不足すると思いました。これは本当にぞっとしました。朝日新聞の取材で、私は背中に氷の柱が一本立ったような気がしたと答えたのですけれども、今、私は政府の対応能力が不足するとちょっと格好いい言葉を使いましたが、そのときに何を思ったかというとはっきり覚えているのですけれども、完全に手と武器が足りないと思いました。どこか見捨てなければいけない状況が起こるのではないかという気がしました。本当に私は途方に暮れたのはこれが最初です。

そこから小一時間、2時46分と同じ状況に入りました。実は参集チームの危機管理センターのメンバーも、それでなくても東北で緊張感でいっぱいの中でもう一度同じ地震が起こったということで、本当に気持ちを奮い立たせてそのオペレーションをしてくれました。ほぼ1時間後ぐらいに、人的被害の把握なしに連絡を取れる状態だと、119番1件もなしと書いてあるのですけれども、正直言ってほぼ1時間経って、そんな被害は大きくないんだというのが全体の中のコンセンサスになった時点で、よかったと思って、私はベントが終わっただろうなと思って中2階の部屋にベントは終わりましたかと言って飛び込みました。そうしたら、ベントが終わっていないというのを東電の武黒さんから聞いて、2度目のどなりを私はしました。なんでベントが終わっていないのですか、3時にやると言ったのはあなたたちですよ。あなたたちが3時にやると言ったのですよ。それで官房長官が会見をしているのに、国民にうそをついたことになるではないですかと、爆発しないのですかと、もう1時半に決めてから4時間も経っていますよと言ったのが、2度目のどなった記憶です。

私はすぐその後、官房長官のところに行きベントが終わっていませんと。このときは細野さんが一緒だったと思います。官房長官もちよっとたまらぬと、だって、会見した本人ですから、たまらぬという雰囲気の中にいました。それでもう一回危機管理センターに下りてきて、5時半くらい、総理が危機管理センターに執務室からもう一回下りてこられました。そのときに私は寺田補佐官が総理の横に付いて下りてこられたのですけれども、寺田さんはその間ずっと執務室にいて視察の準備をされています。秘書官と2人で下りてきて、私は総理を迎えて、結果として総理に一言ベントがまだ終わっていませんと

言ったら、総理がえっという顔をされて中2階に飛び込まれました。総理がもう一回私たちと同じようになんで終わっていないんだと言ったら、そのときの答えは、ベントには電動と手動がある。電動は停電のお陰でできませんと、手動は今時間がかかっています。作業工程で準備をしている時間がかかっていると、そしてなおかつ手動で行くには線量が今上がっていて行きにくい状況ですという状態の報告があつて、そんなこと言つたつて爆発するのではないのか、危なくないのかと言つて、とにかく早くベントしろベントしろと言っている中でほぼ6時前になって、そのときにもうベントしないと爆発する危険性があるのではないですかという確認をしたら、例によって班目さんですから、それはないとは言えませんとか、ゼロではありませんとかというたぐいの答えになります。

そのときに3kmでは足りないという感じを総理も私も官房長官もみんな持って、これは指示を出さないと危ないですねということで5時44分、10km圏内の避難指示になります。

○質問者 その話は中2階ですか。

○福山前副長官 中2階です。

その10km圏内で避難をするということを決めて、そのときに実は風向きの議論をしています。風はどちらだと。そうしたら、海側ですみたいな報告があつて、とにかく10km圏内は逃げてもらおうと。そのときにどういう手段で伝えるんだということも確認しました。私たちは一応停電していて通信が途絶えているのは嫌というほどわかっていますから、そうしたら、もうしようがないから警察車両や防災車で、私のときのイメージですが、要はスピーカーか何かで走ってもらうしかないのだみたいな話を聞いて、とにかく何でもいいから避難をしてもらおうということで5時44分に避難の指示をお願いしました。

報告書には実は載っていないのですが、総理はそのことを国民に出発前のヘリに乗る前のぶら下がりですら総理に明確に外へ言ってもらおうと、それが流れた方が避難が早くなるという判断と、決めたことはちゃんとすぐと言おうという判断の中で総理はヘリ出発前ぶら下がりの会見で10km圏内の住民の皆さんにも避難をしていただきますと発表してヘリに乗っておられました。これが実は私なりの総理が視察に行くまでの状況です。

余計なことを言うと、海江田大臣は自分も行くということをや2時か3時ぐらいに言い出されました。さすがに所管の大臣と総理が行くのは危ないと思ったので、済みません、これも別に自分がということをお願いしたいわけではありませんが、官房長官の部屋に私は飛び込んで、私からまさか経産大臣にやめてくれとは言えないので、官房長官から電話してもらえませんかと言つて枝野さんに連絡をして、枝野さんに話したら枝野さんがわかつたと言つて、枝野さんから経産大臣に電話してもらつて、経産大臣は所管の担当なので残つてくれという話をし、結果として残つてもらいました。

寺田補佐官と私のどちらに[]行くかということを一応議論したのですが、官房長官の補佐を私はしなければいけないので、寺田補佐官に行つていただくという状況[]
[]中2階に実は総理が行かれた後、ほとんど私は海江田大臣と一緒にいて、海

江田大臣は必死になって早くベントをやれと言っておられました。そうしたら、お前らがベントしないのだったら命令にするぞということを何度も海江田大臣は言われて、結局業を煮やしたように、6時50分ぐらいだったと思いますが、海江田大臣命令の措置命令にベントが変わるはずです。

正直申し上げて、このときにベントを我々が躊躇しているとは余り思っていません。要はわかりませんから。実は報告書全部、私も通読させていただいて若干感じるのは、後々何となく報道等で言われているものと現実のそのときの状況が、役人側だけのヒアリングと東電側だけのヒアリングなので仕方ないと思っているのですけれども、そこが若干混在しているなという感じがします。私たちの中でそこで躊躇しているというか、なぜやらないのかがよくわからない。だって、1時半にやると言ってきたのは向こうですから、3時にやると言ってきたのも向こうですから。

余計なことを付言しておきますと、当時は冒頭申し上げたように私は素人ですので、原子力安全委員会の委員長というのは、東大の教授だということも当時承っていましたし、委員会の委員長というものがどれほどの専門家でこの人に頼るしかないというのが実態です。だれもほかに頼る人がいません。

これははっきり私は覚えているのですけれども、総理が業を煮やして、もう吉田所長と直接しゃべらせてくれと途中で言ったのです。これはどこの時点かわかりません。ベントをやる、やらないの時点だったのか、ベントをできないと言われて避難の指示を議論していたときなのかははっきり覚えていないのですけれども、「吉田、現地と直接連絡させる」と総理が言ったときに、実はそこで武黒さんが自分の横にいた補佐の人に、「現地の吉田所長の連絡先の番号を調べろ」と指示をこそと小声で言っているのを見て、何だこの人は現地と直接連絡を取っていたのではないのかと私は愕然としたのを覚えています。

つまり、武黒さんは全部本部経由だったということです。本部経由は、これは検証委員会の皆さんもよく御案内のように、本部全部テレビ会議をやっていました。当時、私たちは何にもそのことを知りません。本部を通じて武黒さんが全部ワンクッション入れて、極端な話を言うと、本部から官邸の指示がどういう形で吉田さんに伝わっているのかというのは後になって危ないと思いました。つまり、我々の意向は全然どこで伝わっていたか、どこでどういうふうにされていたかもわからない状況です。途中でこの武黒さんは吉田さんに直接しゃべっていないんだということを私は夜中に感じて、ちょっと危ないと思いました。一方で、途中で寺坂さんから、だれでしたか。

○質問者 平岡次長。

○福山前副長官 平岡さんにチェンジして、

挙句の果てにはベントがされないという状況の中で、徐々に大丈夫かなという気分になったのがほぼ明け方の状況です。でも、最初のうちはその人たちしか頼る人たちはいないのです。これが実態です。それが正直な私の思いです。

これは悪口を言っているとか、その人を中傷誹謗しているのではなくて、その限られた情報の中で我々とはとにかく総理と官房長官と寺田さんと私は内々に話したのですけれども、もうとにかく1分でも1秒でも早く避難指示は出しましょうと。後で大きすぎたと言われてもいいから、避難の範囲を拡大しましょう、大きめにやりましょう。後で小さすぎたというのは絶対だめですと、とにかく被曝を最小限に抑えることが最大のやらなければいけないことだと思いますみたいなことをよくしゃべっていたことは記憶しています。それについては総理や枝野さんも完全に同意をしてくれました。

もう一個、これも内々、情緒的な話ですが、このまま線量が高くて作業を続けてもらうということは、爆発が起こったら作業所の人たちの命が危ないんだなというのは、ど素人の我々からすると政治家ですから、人命が危ないのかもしれないということについてはみんな腹の中では思っていましたけれども、口には出さない中でのコンセンサスはそれぞれありました。なぜかという、私は弱い人間なので、自分一人でそれを思っているのが耐え切れなくて、途中で寺田さんに5時半ぐらいだったと思いますが、このまま作業を続けて爆発するという、サイトの人たちは危ないということですねと確認したら、寺田さんが、わからないですけども、そうだと思いますよと私に言ったので、自分の感じとそんなにずれていないんだなと思いつつ、でもやらなければいけないと感じたのは、それはなぜ覚えているかという、わざわざ小部屋から出て階段の踊り場まで言って、私は寺田さんとその会話をしたのを覚えているのですけれども、そういう状況が6時過ぎまでの状況です。

報告書に書いてあった明け方の時点で IC の状況について吉田さんが気がついて、もうひょっとすると炉心溶融が起こっているかもしれないという表記が中間報告に書いてありました。ここは私は [] チェックしたのですが、ならば、なぜそのことを吉田さんは総理の視察の場で言わなかったのかと。総理の視察の報告を私は受けました。総理も確認してきましたが、現実の問題として総理が行った視察の場面で吉田さんからはベントは早くやりますという問題があったし、決死隊をつくってもやります吉田さんの話を聞いて、総理は吉田さんに対する信頼感を高めて帰ってきました。総理が帰られての第一声は、私に対して「吉田は大丈夫だ、信頼できる。あいつとは連絡を取り合える、大丈夫だ、やれる」と言ったのが総理の第一声だったので、決死隊をつくってやるという吉田さんの表現はわかるにしても、総理が着いたのは7時半前ですか。なぜ本当に中間報告にあるように1時くらいの時点で IC の問題がわかっていて、炉心損傷していると思っていたならば総理に伝えなかったのかというのは私なりによくわかりません。

もう一点は、中間検証によると、IC がだめで2号機よりも1号機が危ないという判断をしたというのはどうも2時から3時の間ぐらいになっています。例の武藤さんの会見のときにどちらだと言われたときに、武藤さんがはっきりむにゃむにゃ言っていたという状況にもなっています。それは私はわからなくもないのですけれども、私のこのノートは1号はベントに入ると明確に書いているのです。

○質問者 何時ぐらいですか。

○福山前副長官 だから、0時57分に総理が危機管理センター入りで、なおかつこのときに1号がベントに入る、炉心は溶けていない、外に出ない、水位プラス1mと書いてあるのです。これは私が混乱しているのかもしれませんが、ここの時間のずれは、ただ3時前の時点で2号なのか1号なのかみたいな声があったのも、私なりにもうっすら覚えていますが、しかし、私の中では途中からほぼ1号にシフトしたような感じなのですけれども、ここは微妙に時間がずれています。ですから、若干そこは気になりました。

○質問者 当初2号が危ないと。

○福山前副長官 はい。当初、2号は危ないというのは認識しています。

○質問者 それが1号に替わったタイミングというのは。

○福山前副長官 途中で1号に認識したのは、私は実は日が明けたすぐぐらいではないかとなっているのです。そうでないとここは明確に1号はベントに入ると書いてあるのです。

○質問者 それは0時57分のこの議論のときのベントということですか。

○福山前副長官 そうです。ちゃんとここに2時20分総理の福島で順番がありますから、多分そんなにずれて書いているわけではないと思いますので、実態としてはそういうことだったと思います。これは中間検証は理解いただいているのでしつこく申し上げませんが視察のお陰でベントが遅れみたいな話は若干無理があります。確かに吉田さんがそこで指示系統から離れたことは大きかったかもしれませんが、我々の中では先ほど申し上げたように3時にベントが始まって、その後、ベントがもうできていると思っていたのが実態です、それが官邸側の状況です。

先ほど言われていた官邸5階と中2階と危機管理センターの関係も、済みません、生意気ながら若干中間検証は官邸5階にシフトしすぎのような気がします。官邸5階に移ったのは、実はその後です。なぜ官邸5階に移ったかという、よく携帯電話の話が出ますが、危機管理センターに携帯電話がじゃんじゃん鳴ったら仕事になりません。例えば政治家の携帯電話が危機管理センターに入っているときに変な話ですけども、マスコミから電話がじゃんじゃんかかったら、そんなの仕事にならないです。変に漏れて大騒ぎになります。私は危機管理センターで携帯が繋がらないというのは合理的だと思っています。

どうしても携帯にかかってくる電話があるので、それは危機管理センターから歩いて1分もしないところにつながるところがあるのでそこに行ってチェックをしていたというのが実態なので、携帯が繋がらないことが問題だったかという、実は私は携帯が繋がった方が危なかったような気がします。

実態として申し上げれば、有事、特に安全保障上の有事やこういった緊急の災害のときに携帯が危機管理センターにつながらないというのは、実はどちらが合理的かはわかりま

ました。だから、総理もそこはわかっていたので、淡水がなくなったら海水だみたいなのはちょうど12日の昼前後の議論ではあったと思います。

現実問題として次の質問、水素爆発に移るのですが、こんな長くなってしまって済みません。大体今のが初期の時系列の状況です。

○質問者 初期の今の部分で何点か教えていただきたいのですが、中2階で最初の3 kmの避難指示の議論をした。そのときには総理もおられてその場で一気に総理以下で決まったという流れであったと。

○福山前副長官 はい。

○質問者 3 km、なぜ3にしたかという部分は覚えてらっしゃいますか。

○福山前副長官 今申し上げたとおりです。まずもともとが2 kmになっていませんか。

○質問者 2 kmは福島が出しているのですね。

○福山前副長官 それを私たちは知らないのですが、防災マニュアルはなんて言われていましたか。3 kmでしたか。

○質問者 マニュアル上、何 kmで先に出せということは書いていないのです。

○福山前副長官 3 kmぐらいまでは準備ができていますみたいなのが保安院からあって、それで結果として一遍に出したら近くの人が簡単に言うと渋滞とかになると出遅れると。まず近くの人を出そうと。そんなに広くなくていいという話は班目さんからもあったので、そこで避難の指示は3 kmにしたと思います。

○質問者 近い人を最初に逃がさなければいけないのでというような議論をだれがされたかというところまでは記憶はないですか。

○福山前副長官 実は当時の会合の様子というのは、相当余り役職とか関係ありません。みんなが簡単に言うところではどうなんだ、あれはどうなんだという中で収斂していった実態のところなので、具体的に誰が言ったかというのはわかりませんが、現実問題としては近い人からやらないと遠い人は逆に言うと逃げられる可能性は高いので、近い人からというのを優先したような気がします。

○質問者 この3 kmの避難を決めた段階で、班目さん辺りなのですが、ベントをするにしても管理された下でベントをするのであれば3 kmで十分なんだというような発言をした。それはお聞きになったことはありますか。

○福山前副長官 言っています。

○質問者 それは班目さんですか。

○福山前副長官 班目さんです。

○質問者 というのは、班目さんはこの3 kmを決めたときには私はいなかったのではないかという話。

○福山前副長官 いなかったのか、いたけれども、どこかに行っていたのか、それはわかりません。だけれども、少なくとも寺坂さんや班目さんには確認しているはずですよ。

○質問者 決まった後で、9時過ぎに班目さんはまた戻ってきていたのですか。

- 福山前副長官 官邸内にでしょうか。
- 質問者 官邸にです。9時20分が3kmの避難指示。
- 福山前副長官 もうちょい遅くないですか。
- 質問者 午後9時20分ですね。
- 質問者 23分。
- 福山前副長官 9時23分ですか。もうちょい遅くなかったかな。福島はいつでしたか。8時何分でしたか。
- 質問者 8時50分です。
- 福山前副長官 でも、班目さんがいなかったとしても多分保安院か何かが言っています。
- 質問者 10kmから20km拡大するタイミングを後でお話を伺います。
- 福山前副長官 15日ではないか。
- 質問者 12日の夕方。
- 福山前副長官 夕方、水素爆発の後ですね。
- 質問者 後です。10kmから20kmに拡大することになったと聞きますけれども、先に10kmでまだ避難が終わっていないうちに拡大すると逃げる人も渋滞で逃げられなくなるという話があるときもまた出ていますか。
- 福山前副長官 出ていません。だって、水素爆発を見ているから。
- 質問者 先生は今言われた狭く設定して拡大していかないと渋滞が起こってしまうというような議論、そういう理由を述べられた方がいらっしゃっているということですが、それは先生の今持ってらっしゃいますノートの中にはありますか。
- 福山前副長官 ノートにはないです。
- 質問者 次のものをいいですか。10kmに拡大していますね。10kmに拡大するときというのが先ほどの福山先生のお話ですと、もう5時半ごろに総理がセンターに下りられてまたベントしていないのだという報告を受けて、そこで。
- 福山前副長官 5時過ぎ、5時44分に言っているはずですよ。
- 質問者 そこで拡大した方がいいのではないかという話が出て、かなり短時間でも決まったというような印象であったと。
- 福山前副長官 決まりました。それは外見上は短時間ですが、私たちから言うと5時間経っているのです。ベントを決めたのは短時間なのですが、私たちの一緒の中で言うと、5時間経っていて、爆発はいつするかわからないというどきどき状況なのです。だから、そこは短時間で決めたというのではなくて、逆に言うと長時間かかりすぎているという感じで早く避難の指示を出したいという意味合いです。
- 質問者 では、拡大すべきなのではないかという議論はもっと早い段階から。
- 福山前副長官 いや、していないですよ。だって、ベントが終わると思っていましたから。
- 質問者 終わると思っていたのでということですね。すると、このときも総理が中2階

に来られて、その場でもう決まったという。

○福山前副長官 決めました。

○質問者 官房長官も下りてこられていましたか。

○福山前副長官 官房長官もいらっしゃったと思います。ただ、そこは入れ代わり立ち代わりだからどの瞬間にどういう形でちゃんとみんなが着座していたかはわからないのですけれども、ただ、官房長官はそのときはいたと思います。

○質問者 中2階の話ですね。

○福山前副長官 中2階です。

○質問者 済みません、10kmの3の次が10になったというのも、保安院あるいは班目委員長辺りから、次拡大するのであれば10というような数字が示されたのか、その辺の御記憶というのはございますか。

○福山前副長官 これは20、30は全く準備がないのです。

○質問者 なので10と。

○福山前副長官 現実問題として、班目さん辺りからは10もあれば十分だみたいな話が多分出ているのです。もう一点申し上げれば、我々が避難指示を出すときに重要なのは、そのときにそこまで意識があったかどうか正直言って自信がありませんが、避難場所を確保しなければいけないのです。20から30となると、同心円状で言うと人口が一気に増えるのです。これは伊藤さんがよくこの議論をされました。伊藤さんはそれは無理ですと。

○質問者 20から30のときですか。

○福山前副長官 20から30のときもそうですし、20から30のときはそれが主たる理由です。それともう一個あるのですけれども、20から30のときはしますが、そのときは10kmにとどまったというのも大きくしすぎても、それはまず近い方から逃がすのだというのが最初の段階です。このころはとにかく私たちは爆発するのではないかということばかりです。政治的に言うと、とにかく被曝者を最小限に抑えたいというのが我々の最大の目的です。だから、その場を若干想定していただきたいのは、私たちから言うと現地の状況が混乱しているのはもう所与のものなのです。そうすると、だれかが意思決定しなければいけないわけですし、ベントが言っているように遅れているということは、爆発するかもしれないのでとにかく早く逃がしたいから、とにかく5時44分、早く逃げてもらおうというのが正直言ってすごいわかりやすい議論で言うとそういう話です。

○質問者 わかりました。

○質問者 それは福山先生が頭の中でそのように思っていたのと、実際に言葉で。

○福山前副長官 出しています。みんな出しています。だれかが出しているかは別にして、みんなそういうことを言い合いながら、では早く避難指示を出そうという感じでした。

○質問者 今の御説明で1点お聞きしたいのですけれども、ちょうど3月12日の朝の7時45分、総理が現場に行っているときなのですが、福島第二原発の方の3kmの避難指示というのが出ているのですけれども、この部分について御記憶があることはございますか。

○福山前副長官 3 km の避難指示は措置命令を出しましたね。措置命令が6時50分ぐらいではないですか。6時50分ぐらいに措置命令を出して、早くベントをやれと言っているのですけれども、なかなか進まないから爆発のリスクはありますね。そうすると、これは福島は3 km は10 km には入らないのでしたか。

○質問者 2F の3 km は10 km だと入らないです。

○福山前副長官 これは逆です。第二原発の炉でも同じような状況が起きるのではないかという議論をしたのではないかなと思います。つまり、第二は第一に比べると安定しているわけですね。そのときに多分第二も第一と同じようなことが起こらないのか、早めに出しておかないでいいのかみたいな話の中で出したのではないかと、うっすらと記憶しています。

○質問者 ちょうど第二原発も15条通報が5時22分から6時7分にかけて入っていて、第二原発においても原子炉の圧力抑制機能が喪失したという話が出てきて、これの議論というのもやはり中2階ということになるわけですか。

○福山前副長官 中2階です。だって、そのときは総理がいないでしょう。

○質問者 このときもう総理が出ていた。

○福山前副長官 だから、官房長官と海江田大臣だと思います。

○質問者 それは中2階にそのころはまだおられたと。

○福山前副長官 中2階です。先ほどの避難の総理の5時44分も、その話をして5階へ1回上がって総理は出ていくのです。つまり、そこで中2階でしゃべっていたものを上へ上がって決めて実はぶら下がりをしてへりに行くので、これは本当にその場の状況なのですけれども、どちらで決めたかと言われると余りよくわからないのです。みんな流れ作業でやっていますので。だけれども、少なくともその流れです。だから、かちっと5階で会議をしたとか、中2階で今から会議をやりますねと言って会議をしているわけではないので、だから、先ほどの私の記憶がほぼそれで間違いがないのですが、二号でも15条通報か何かがあったので、多分二号の3 km の指示を出したのだと思います。

○質問者 ここまでの部分で最初の緊急事態宣言の話の際に、総理が与野党の党首会談に行かれたという御説明をいただいたのですけれども、その当時の議論として、総理は行かれる前に先に発出してしまった方がいいのではないかとか、逆に与野党党首会談は相手を待たせるのもあれなので、きちっと対応した方がいいのではないかとか、そういうやりとりというのはございましたでしょうか。

○福山前副長官 もう党首会談はセットされたので、行くだけ行って、さっとあいさつして帰ってくるから、とにかく中断という感じです。

○質問者 その総理が行かれている間に、これまで聞いた話の中で法律を調べたり原災法というのがどういうものであって、どういう手続を取られてというようなことを官房長官以下で調べられたというようなことも聞いておるのですが、そういうことを。

○福山前副長官 それは結構いろんな場面でやっているもので、同様に常に総理の秘書官は

入っておられたので、秘書官に原災法上はどんなことができるのかということから、今どういう状況なんだみたいなことは確認しました。ただ、そのときにどの程度やったかはわからないですけども、総理がいなくなってからいろんなことをしゃべっているのです。だから、電源車の手配とかもそのときに出たりしている。

○質問者 わかりました。

○質問者 その場面でもこんな事態だから、もう党首会談を中止みたいな話がありましたか。

○福山前副長官 それはあり得ないです。だって、野党の協力を得なければどうしようもないですから。野党の協力を得ないと震災対応などはできませんから。

○質問者 そのときは震災対応についてということですか。

○福山前副長官 勿論です。

○質問者 震災対応が話題になって党首会談があった。

○福山前副長官 勿論ですよ。

○質問者 協力しますよという。

○福山前副長官 向こう側にやはりこの事故が起こっているのです、野党に対して協力要請をして野党側にも今の現状について報告しなければいけないという話の中での党首会談ですから、別に政治的に政策協議をするために党首会談ではないので、それは逆に言うと、いかに失礼のないように丁寧にするかということが優先順位です。

○質問者 もう一点、総理が現地に視察をされたということなのですが、ベントがまだできていないから総理が現地に行くことを決めたというよりも、時系列的にはもう少し早い段階で総理が行くことが決まっているようなのですけれども、これは何か具体的にきっかけがあったとかというのは。

○福山前副長官 総理はとにかく行きたいというときには2つあったのです。

1つは、原発の状況ですけども、もう一個は当時は真っ暗で津波の被害が全然わからないのです。先ほど言ったように10時の段階でまだ亡くなった方が88人ですから全然把握ができていないのです。だから、総理としては明るくなった瞬間に上空からでも津波の状況を見たい、原発の状況も確認したい。2時ぐらいの状況という、相当総理の中で言うとストレスがたまっているのです。班目さんとしゃべっていてもよくわからないし、武黒さんとしゃべっていてもよくわからないし、保安院の人間としゃべっていてもわからないので、では私が直接吉田とやるという感じだと思うのです。それと津波の状況を上からでもいいから、明るくなったら見たい。そうでないと総理はもうオペレーションできないですから、外でなどはあり得ないので、だから逆に言うと日の出とともに出たという感じなのです。

○質問者 それは総理から直接そういうお考えを聞かれたということですか。

○福山前副長官 政治家同士ですから、暗黙の了解とか、そうなのだろうなと思います。

○質問者 これは今になってなのですけども、当時指揮官が現場に入ってしまったって指揮

所を離れるということについていろいろ言われるところもあるかと思うのですが、福山先生御自身は行かれるということについてどのようなお考えで、何か総理に申し上げられたとかそういうことはありますか。

○福山前副長官 私は逆にちゃんと福島だけではなく、津波の被害も見てくださいということでは言いました。それは下りられないという判断をしました。私は時間がこれは書いてあるのです。実は津波の被害は総理は下りたいと言ったのですけれども、下りたら現地に迷惑をかけるからやめてくれという話と、下りると戻る時間が午後になるのです。とにかく官房長官と話していたのは、午前中のうちに総理に帰ってきてもらおうという話をしたので、だけれども、行くことに関していえば、私はそんなに抵抗はありませんでした。

これは仮説の話ですから意味がないのですけれども、行かなかつたら現場も見ないで指揮したのかと今度はマスコミにたたかれるのです。政治ってそういうものですから、それはどちらにしてもたたかれるのです。結果論で行ったか行かないかというのは私は余り関係ないと思っていて、現実問題として最高指揮官であろうがなかろうが、意思決定はそうやってみんなで合議でやっていたから、当時は枝野官房長官が任されていればそれで十分でしたし、海江田さんもそのために残ったので、私自身はそのことが何らかのそれから先の事故対応に影響があったとは思いません。

ただ、びっくりしたのは、吉田さんが明け方になって総理が来るのを知って慌てたという表記が中間報告にありますね。あれも私はびっくりしていて、そんなこと絶対ありえない話です。2時20分に行くことを決めているわけだから、それは総理の秘書官から東電側にも絶対連絡は行っているわけですから、ということは東電側で本当に連絡をしていなかったらそれは東電側の問題だし、もしそこで作業が厳しかったら、今作業は厳しいと言って止めるべきだったかもしれない私は思っていますし、中間検証の表記を見て総理の視察に関して言えばびっくりしたのはそこです。

○質問者 済みません、先ほどちょっと話が中断になってしまったのですけれども、1号機の爆発の辺りからまたお話しいただけますか。

○福山前副長官 1号機の爆発は、当初は白煙が上がっているという報道と報告がありました。白煙が上がっているという報道があって、私は総理の執務室に班目さんといました。このときも山口公明党さんと党首会談か何かやっていますか。

○質問者 と聞いております。

○福山前副長官 そのときには総理のところにはまだ上がってなくて、それから戻ってこられたときに白煙が上がっているという報告が上がりました。白煙が上がっているというのは何だみたいな話を総理が班目さんに聞いたら、班目さんは原発というのは揮発性のものがたくさんあるのでそんなのが何か漏れているのではないですかみたいな話が実は入ってきました。結果として早く報告を上げろ、わからないのかみたいな話がどうのこうのあっている中で、日テレが報道したのは何時でしたか。4時49分かな。福島ではすぐに流れましたけれども、全国ネットに流れたのは多分1時間10分後ぐらいだと思います

ので、4時49分ぐらいにその映像が流れ出したのを、これはあちこちで報道になっていますが、寺田さんが飛び込んでこられて、今、映っていますと言ってテレビを付けられました。もう一生懸命リモコンを操作されたのを覚えています。

そうしたら、完全に皆さんもごらんいただいている映像だと思いますが、建屋が吹っ飛んでいます。爆発ではないですか、何が白煙が上がっているんですかと、総理と私はほぼ同時ぐらいに叫んだと思います。白煙ところではないではないですかと言って、総理は私の記憶では、「あんな爆発だったら現地人間はわかるだろうと、なぜ報告が上がってこないんだ」と総理は言われました。これもよく言われている話で、これは寺田さんと私が外で言っているのしょうけれども、班目さんはそのときに爆発の映像を見て、あちゃーという顔をされました。

これは余談ですが、寺田さん、菅総理は視察のときに水素爆発がないという班目さんの言葉を聞かれているそうです。私は視察に行っていないのでわかりません。ただ、後に注水の問題で報道されたときに班目さんと呼んで、私が班目さんにゼロではないと無理やり言わせたという報道になっていますから、それは班目さん自身が自分で認められた話で、私はそういう言い方をするかもしれないと言われたのですけれども、そのときに実は私、人払いをしてもう一度班目さんに確認しました。班目さん、もう一個だけ聞かせてくれと。要は水素爆発について、総理や寺田さんは別に、私たちに水素爆発の可能性について言及されたことは、1号機の水素爆発までに一度もありませんでしたよねと申し上げたら、そのことについては一切自分は言っていなかったと。自分は格納容器についての爆発については頭がいっぱいだったので、要は建屋が水素が入って爆発することについては頭の中になかったと、私のサシの場面では言われました。

だから、そう思うと、あそこであちゃーとした顔をされたのは何となくわかるのですけれども、ただ、そのときも総理は別に怒りもせず、あれは爆発ではないか、あれはどうなっているのだと、そうしたら、済みません、私は相変わらずど素人なのでそのときに班目さんに聞いたのです。あれはチェルノブイリ型の爆発なのですか、チェルノブイリと同じことが起こったのですかと聞いたと思います。

とにかく早く報告を上げてこいと言ったのですけれども、全然上がってこなくて、実はこれを見ていただければと思いますが、これは17時36分、原子力発電所1号機付近の白煙発生ですが、ここは17時36分で、17時40分プレスとなっていますが、5時40分の時点で私の手元にあるペーパーでまだ白煙が上がっているのですから。

つまり、簡単に言うと、4時49分か何かにテレビで放映があるにもかかわらず5時40分、ほぼ1時間経っているのにまだ白煙が上がっているのですから。なんでこのペーパーが私のところに残っているかという答えは簡単で、5時45分から枝野官房長官の会見があるからです。会見のときにはそれぞれの担当省庁の人間と官房長官秘書官が全員集まって、それぞれの状況、それは地震・津波、原発事故、例えば当時で言えば交通の遮断、

そういったことについてありとあらゆる情報を官房長官に渡して、それで会見に臨まれます。17時45分から枝野官房長官会見があると思いますが、その手前にこれが多分回ってきているので、そのときにいまだにこの白煙状況です。

なんであんな爆発しているのにいまだに白煙なんだと言って、情報持ってこいと言って怒っていたのが実態で、これは新聞報道によくありますが、執務室で私が官房長官にこれでは会見できませんと、説明しようがありませんと。なんであの爆発が起こっているのかわかりませんと、会見の時間をずらしましょうかと聞いたら、枝野さんがうーんと考えられた後、これだけ映像が流れているのに会見を遅らせたら政府は何か隠していると言われるよねと、私は会見やりますよと官房長官が言われていました。それを総理が何とも言えぬ顔をして私たちのやり取りを聞かれたような顔をした中で、総理は一言「やってもらおう」とおっしゃいました。これが当時の水素爆発の状況です。

これは後で私はNHKスペシャルでわかったのですが、保安院が何かの会見をしたいとその前に言っているのに、官邸から止められたという議論がありました。私は全くそのことは知りませんでした。NHKのNスペで私はそんなことが起こっているのだということがわかって、Nスペの報道でいきなりインタビューのときにそのことを聞かれて、私は正直言って困ったのですけれども、当時、保安院がやっている記者会見などは我々はほとんど念頭にありません。なぜならば、その保安院のやっている記者会見とか資料を基に全部官房長官がそれをベースに逆に言う会見をしていますので、保安院が個別に会見をやっていたという認識もひょっとしたらないかもしれないぐらいです。

つまり、これは私たちの問題もあるかもしれませんが、政治家だからとか、官邸にいるから全部がわかっているわけではありません。どの省庁でどれがどういう動きをしているか全部把握しているわけではありません。少なくとも官房長官と私の中では官房長官の会見が国民に対する唯一、もっと言えばクレディビリティを担保できる最もあの時点では官房長官会見が信頼性が高いものだと思っていましたから、そのことをいかにきちっとやるかの方が優先順位が高いので、実は保安院がどうのこうのという話は私も官房長官もそのときは何も知りません。

ただ、1つ疑問に思うのは、当時保安院は何を会見しようとしていたのだというのが私なりの疑問です。だって、保安院から来ているペーパーがこれで、保安院が私よりも前に会見するって何考えていたと。白煙が上がっていますと会見するのかと。私たちから言うと完全にそういう感じです。これは後付けの議論です。当時はそのこと自身知りませんから。

官房長官に会見に行ってもらって、官房長官が言われた爆発的事象というのは、官房長官の御本人の考えられた言葉です。こういう言葉が使われたと私は横で拝聴していて、何となく、ああなるほどと思ったのを覚えています。爆発的事象とそこは使われていますね。でも、現実にあの会見をやられたときはまだ官房長官は水素爆発の状況を何もわかっておられませんから、私たちの中ではチェルノブイリ型の爆発がとうとう起こってしまっ

たのかと心の中では半分以上思いながら、事実関係はわからない中であの会見をしたので、相当あのときは重い気分でした。だから逆に言うとその前後です。10km 圏内、では 20km の避難は。

○質問者 その後ですね。

○福山前副長官 その前後でしょう。

○質問者 はい。

○福山前副長官 だから、そのときには水素爆発がチェルノブイリ型の爆発かわからないので、少しでも避難の箇所、避難を大きくしようと、最初言っていた原則どおり大きくしようというのが実態です。

○質問者 水素爆発の関係なのですから、15時半過ぎに伊藤危機管理監が福山副長官にお電話で現地で大きい音がしたという情報が入っただけけれども、御存じですかというような感じで電話で話されたというようなことをおっしゃっていて、福山副長官もその15時半の時点では知らないという回答されたので、伊藤危機管理監が上がって行って、総理等に対して今入っている情報ということで、爆発音がしたということと、どうも黒いものが飛んでいるようだというような話をしたということなのですから、それは御記憶にございますか。

○福山前副長官 先ほど申し上げた会合に伊藤危機管理監がいらっしやった可能性はあります。だから、その場面だと思います。

○質問者 明確に覚えてらっしゃるというわけではないですか。

○福山前副長官 だから、その場面にいらっしやったのだと思います。

現実の問題として言うと、どの場面でもどの人が明確にいたかというのは結構記憶はあいまいなので、そこは申し訳ないですが、ただ、そこには多分いたから先ほどの話になったのだと思います。だから、その場面だと思います。

○質問者 その場面というのは、先ほど総理が党首会談をしていて。

○福山前副長官 党首会談の後。

○質問者 平岡さんもないので。

○福山前副長官 白煙が上がっている。

○質問者 その同じ場。

○福山前副長官 そうです。その同じ場です。伊藤危機管理監もいたということ。

黒い煙が上がっているかどうかの記憶はありません。ただ、白煙が上がっているというのは報道も含めてあったので。

○質問者 総理がその場にいた東電の人等にいろいろ聞いても全然がらちが明かなかった。

○福山前副長官 らちが明きませんでした。

○質問者 そうこうしているうちに4時半ごろのテレビにある。

○福山前副長官 4時■9分。

○質問者 これで初めて爆発ではないかという話になった。

○福山前副長官 そうです。映像を見て。

記憶はありませんが、その爆発の写真か何かは福島のアフサイトセンターか福島県庁か何かに送られてきたというのがその前後にありませんでしたか。

○質問者 ありますね。

○福山前副長官 ありましたでしょう。あれは私たちは夕方遅めにわかるのです。それでなぜ福島とかに行っているものが官邸に来ないんだと言って怒りまくったのは記憶にあります。

○質問者 どなたが怒りまくったのですか。

○福山前副長官 みんな怒っていました。そのときは総理は余り怒らないのです。枝野さんとか、私は相当怒っていたと思います。

○質問者 やはり広報担当をされている中で福島にある情報。

○福山前副長官 そういうレベルではないです。なぜこんな重要な情報が片方だけに行っ
てこちらに来ないんだという感じです。申し訳ないですけども、余り系統だった話ではないのです。もう水素爆発の時点で前の日からずっと続いているわけです。ベントが遅れている話、途中で保安院の院長が消えている話、これは後付けではなくて、どんどん不信感が高まるのです。班目さんがちゃんとした話、白煙が上がっているというのは揮発性が何かのものが燃えているのではないですかみたいな話も含めて、挙句の果てには官房長官の会見の前でも全然情報が上がってこない。挙句の果てには福島には写真か何か行っている。何なのだからこれはという感じです。

○質問者 話が時間的に戻ってしまうのですけれども、先ほど炉心といいますか線量が上がっている、ベントができないという話がありました。それが12日の午前。

○福山前副長官 5時前後でしょう。4時半から5時半の間ぐらい。

○質問者 5時頃の話で、ベントができない理由として線量が高いのだと。これは菅総理もその場にいらっしゃって。

○福山前副長官 いた場合といない場合と両方あります。

○質問者 菅総理は物理の方も専攻されていたという、この段階で炉は溶けている、炉心は溶けているということは。

○福山前副長官 先ほど申し上げたように、炉心は溶けていないと明確にベントの準備のときに言われるわけです。水はプラスいくつぐらい。

○質問者 それは菅総理ではないですね。

○福山前副長官 これは向こう側でね。総理が頭の中でどう思ったかはわかりません。

○質問者 特に溶けていないのだったら線量が上がるわけではないだろうという話はあるのですか。

○福山前副長官 正直言うと一部の損傷ぐらいはあるかもしれないというのはどこかでみんな思っているかもしれませんが。ただ、ベントをしようからベントしたら回避できるというのが前提で物事が進んでいますから、実態はそういうことです。